戻り→田村へ

東日本大震災被災地
復興支援先遣隊報告会

日時：　4月28日（木）19時～21時
会場：　東京労働会館　地下会議室

（豊島区南大塚 2-33-10） JR 山の手線「大塚駅南口」下車徒歩５分
都営荒川線「大塚駅」下車徒歩５分／地下鉄丸ノ内線「新大塚駅」下車徒歩７分

震災で亡くなった方々にご冥福をお祈り申し上げます。
被災した方々にお見舞いを申し上げます。

新建築家技術者集団では、３月１１日の東日本大震災に際し、１３日には被災地支援と復興に向けての第一次声明を発表し、１４日より救援募金活動を開始しました。４月５日には東日本大震災復興支援会議の設立を決め、同時に被災地の支部と連絡を取り合って先遣隊の派遣を決めました。

４月５日より９日まで第一次と第二次の先遣隊１０名が宮城県仙台市・名取市・石巻市を中心にお見舞いと被災状況・避難所を視察してきました。宮城災対連にも訪問しました。７日には仙台市で、地元の宮城・青森支部、行政関係者、ボランティアの方々と会合を開き（２２名参加）、被災状況の確認や今後の支援について話し合いました。

マスコミでは報道されない被災地の状況を報告し、今後の支援方向などについて意見交流したいと思います。

たくさんのみなさまのご参加をお願いします。

1．復興支援会議の設立と先遣隊派遣について　：新建全国事務局　三浦史郎
2．先遣隊報告（第１次）　：新建東京支部　千代崎一夫
3．先遣隊報告（第２次）　：新建東京支部　松木康高
4．千葉県の被害報告
5．住まい連緊急要請とその展開　：住まい連　坂庭国晴
6．現在の状況と復興支援会議の今後の取り組み：復興支援会議　鎌田一夫
7．意見交流

主催）　新建東日本大震災復興支援会議
共催）　新建築家技術者集団東京支部

後援）　東京災対連（被災者支援と災害対策改善を求める東京連絡会）
全国災対連（被災者支援と災害対策改善を求め全国連絡会）

連絡先：新建事務所　新宿区水道 2-8 長島ビル2階　TEL 03-3260-9800
メール　shinken@tokyo.email.ne.jp　FAX 03-3260-9811

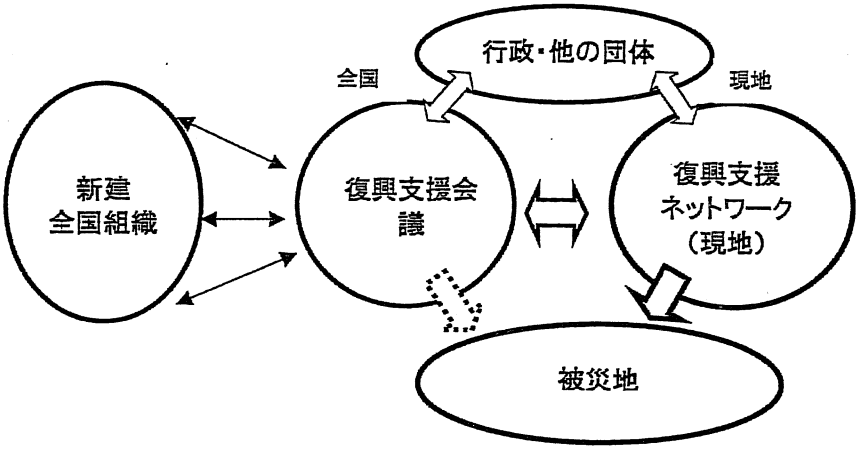
新建東日本大震災復興支援会議（略称：復興支援会議）の設立

新建全国常任幹事会
2011年4月5日

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地方都市とその周辺域の高齢化社会を襲った超広域に及ぶ複合災害である。したがって、復旧・復興、生活再建は大変困難で、従来の経験だけでは対応できない問題が山積みである。

40を超える市区町村の復興には膨大なマンパワーが必要となる。新建も建築とまちづくりの専門家集団として、他の建築やまちづくり団体と協力してこの復興を全面的に支援していきたい。その中心となるのは被災地の新建支部と在住の会員であるが、全国としても被災地の活動と協働して復興を支援する組織として、新建東日本大震災復興支援会議（略称：復興支援会議）を設立する。

1. **復興支援会議は全国常任幹事会に付属する組織とする。**
2. **復興支援会議は次の役割を担う。**
   1) 現地の会員や支部が行う復旧支援に人的、技術的に協力する。
      ＊ 建築被害の診断
      ＊ 建築の改修、建替えに関する相談と実施
      ＊ 建築に関する法律や制度の相談
   2) 現地における専門家の支援ネットワークの設立や組織強化を支え、支援ネットワークと新建全国組織とのパイプ役となる。
   3) 新建が震災や復興に関する声明・提言・マニュアル等を発表する際のまとめ役。
   4) 復興事業においては地元支部、支援ネットワークと協働して直接的に担う体制をつくる。
      ＊ まちづくりに関する相談や支援
      ＊ 共同建替えの相談や支援
      ＊ マンションの大規模改修や建替えの相談や支援
3. **復興支援会議は現地（仙台）に活動拠点を設け、必要に応じて新建会員が駐在して支援を行える体制を整える。**
4. **発足時の復興支援会議は次のメンバーとするが、必要に応じて増員補強する。**
   本多昭一（議長）／塩崎賢明／阿部重徳／岩渕善弘／佐藤隆雄／丸谷博男／黒田達雄／大槻博司／摺木勉／五十嵐純一／三浦史郎／進士善啓／　若山徹／千代崎一夫／鎌田一夫（事務局長）／山下千佳（事務局次長）／松木康高（事務局次長）



＊ 復興支援会議の役割や体制については、4月はじめに先遣団と現地支部との合同会議の結果を踏まえて正式に決める。
＊ したがって、この案は現地支部との合同会議ではとりあえずの全国の意向として提案する。

被災地の皆様　心からお見舞い申し上げます。

皆様のご無事と1日も早い、復興を祈っています。新建としても、復興に全力で協力することを昨日の全国幹事会で確認し、声明を出すこと、義援金の口座を開設することも決めました。

復興支援については、なにを、どこからできるか、千代崎さん中心に全国事務局と全国常任幹事会（代表幹事含む）で具体化して、全国の会員の皆様に呼びかけます。

【新建の義援金口座】
みずほ銀行　新宿新都心支店
普通　3914020
名義　新建築家技術者集団

義援金の使途は、会員・読者で被災された方へのお見舞いと復興支援への助成です。口座振込み手数料はご負担いただくか、差し引いて御願いします

2011.3.14　新建全国事務局長　今村彰宏

新建全国の東日本大震災復興支援への取り組み

2011年4月17日
新建東日本大震災復興支援会議

1. 新建会員や関連団体の主な取り組みは以下の通りです。

＊ 3月12・3日：全国幹事会で議論し、声明発表と救済募金を決める
＊　　13日：第1次声明を発表　ホームページに掲載（p.3）
＊　　16日：佐藤隆雄氏、緊急提言を発表
＊　　19日：丸谷博男氏、「応急仮設住宅・復興住宅への提言」発表
＊　　20日：塩崎賢明氏、「東北関東大地震のよりよき復興に向けて」発表　（p.4）
＊　　22日：兵庫復興センター「東日本大震災の被災者救済、避難・仮設居住に関する第1次提言」を菅総理らに提出　（p.9）
＊　　25日：全国事務局会議で、全国としての支援組織と先遣団の派遣を決定
＊　　25日：住まい連「東北関東大震災の住宅・居住支援についての緊急要請書」を発表
＊　　31日：災対連「東日本大震災救援物資の共同発送と救援ボランティアの派遣実施について」を発表
＊ 4月1日：丸谷氏、ブログ「日本の道」立ち上げ　その中で会員の支援策を掲載
＊　　4日：防災問題・首都圏懇談会「東北関東大震災　緊急報告会」を開催
＊　　5日：持ち回り常任幹事会で、新建東日本大震災復興支援会議の設立を決定　（p.12）
　　：支援先遣団仙台へ出発、9日まで活動
＊　　7日：仙台にて先遣団と宮城支部など地元関係者と合同会議
＊　　：仙台市より福岡市へ福永氏提案のサニタリー・ユニットの問い合わせ
＊　　10日：兵庫復興センター「東日本大震災の被災者救済・・に関する第2次提言」提出（p.13）
＊　　13日：新建復興ML立ち上がる ◎全国幹事・支部事務局・会員メーリング・全国仙人(希望) 133名
＊　　：「東京駅赤煉瓦駅舎の屋根のスレートについて」署名活動、新建444名集める

今回の地震で被災した千葉県、長野・新潟県では、支部会員が応急判定、建物診断、補修設計などに関わっている。

また、多数のメールの遣り取りがあり、情報の提供や意見交換が活発に行われている。

2．新建全国が支援できる領域

新建は現在1,000人弱の会員を擁し、専門分野も設計、コンサル、施工、行政、研究など多分野に及ぶ。今回の復興支援に関わる分野の状況は下記の通り。

1）建築に関して

＊戸建て住宅
会員には専門の設計者が多く、建物診断、改修・改造・建替えの相談と実施など、全てに対応可能。住まい手の要求や状態に沿ったきめ細かい相談と設計が特徴。
＊施設建築
実績ある会員が多い。特に高齢者施設・住宅、介護福祉施設、保育施設では実績と意欲のある会員が多い。
＊構造設計
経験豊かな会員がいるが、数が若干少なく震災後忙しいので技術助言・指導が主になりそう。
＊共同住宅、マンション
維持管理・補修についてはソフト面を含めて実績ある会員が増えている。耐震補強につての相談・実施も対応できる。建替えについても数事務所において実績がある（ヒューザーのマンションの建て替えなど）。もちろん、災害公営住宅など新規建設の設計支援も十分に出来る。
＊コーポラティブ住宅
新建は早くからコーポラティブに関わった建築団体であり、実績は多い。堅牢な復興住宅の要求が高まると予想されるが、共同建替えにおいて個別の要求を活かした共同住宅づくりは得意分野と言ってよい。

2）まちづくりに関して

＊共同建替え
単に共同住宅の設計だけではなく、土地や権利関係の整理といった前段から担える会員事務所は複数ある。複数事務所が共同でプロジェクトに取り組むことも可能。
＊防災計画
防災を専門とする事務所の他、防災を専攻する研究者会員がおり、チームを組んで防災計画を支援することは可能。
＊まちづくり一般
行政の下でのマスタープラン作りなどの実績もあるが、市民のまちづくりを多くの会員が支援してきている。行政と市民が対立構造ではなく協働で復興まちづくりを進めることが重要であり、新建のこれまでの姿勢と実績を活かせると考えている。

復興支援会議では、全国の会員がくどのような分野で、何時、どの程度の＞支援が出来るかを常時把握するように努め、現地・支援ネットワークからの要請に応えられる体制を作って生きたい。

【東日本大震災】

新建築家技術者集団・全国幹事会第一次声明

２０１１年3月１３日

新建全国幹事会(3/12～１３)では、東北各支部会員の安否を確認するとともに、今後の方針として次のような確認を行いました。

1）被災者の皆さんに心からお見舞い申し上げます。お亡くなりになった方々のご冥福を祈ります。

2）新建として、救援募金活動を開始するとともに、現地調査団派遣の準備に入ります。

3）＜避難所に関して＞ 被災者の現状が心配です。全被災者の生活環境を早急に調査し、あわせて、被災者の声を直接聞き、必要な改善に努力したい。

4）＜仮設住宅に関して＞早急に仮設住宅を建設する必要があるが、従前のコミュニティを守るかたちで建設するよう、被災者の声を尊重して進めることが必要である。私たちも専門家として出来る限り協力したい。

5）＜復興まちづくりに関して＞ 次に行うべき新しいまちづくりは拙速を避け、徹底して住民主体で行うべきである。
また、建設工事はできるだけ地元企業主導で行うべきである。(復興事業が被災地地元の経済復興に役立つように。)

6）＜災害に強い国土建設を＞ これを機会に、新たな決意で、災害に強い国土建設・まちづくりを進めよう。
原子力発電は地震国日本には危険であり、これ以上の建設は行うべきではない。代替エネルギーの開発に取り組み、最終的には原子力発電は廃止すべきである。

7）＜情報の迅速な公開を＞ 被災者救援のためにも、また今後の復旧・復興のためにも情報の公開は不可欠です。とりわけ原子力発電所事故関係の情報が迅速に公開されることを、関係当局に要求します。

東日本大震災　　新建築家技術者集団第１次先遣隊　　2011.4.6-7

千代崎一夫／山下千佳

４月５日（火）「愛とヒューマン＆建築とまちづくり支援先遣隊」カー　出発

愛とヒューマンのコンサート委員会（今野強氏、和子氏、林真山氏）と新建築家技術者集団東京支部幹事（千代崎、山下）

２１：００　板橋の事務所から車で、坂戸の今野宅まで行き、そこから支援物資を積み込んで、仙台に向かって出発。町会長さんが見送りしてくれた。板橋区に「災害派遣等従事車両証明書」を発行してもらい関越道と東北道の高速料金が無料になった。

翌６日　１時３０分に仙台市青葉区山手町のマンション着

４月６日（水）行動メモ

６：３０・宿泊先のマンション（青葉区山手町）

室内は異常がないが、外壁にはヒビが入っている。傾向を調査して構造的なチェックが必要。トイレの水が下がる。地震以降の減少なら、排水管あるいは通気管に異常が生じている可能性がある。

・隣のマンション　外壁にヒビが確認できる。

・周辺を調査（荒巻本沢２丁目周辺）

セントラルプラザヨークベニマル　（閉鎖）

エントランスの天井が落ち、窓ガラスが割れて散乱している。外壁のタイルがかなりの枚数落ちている。

コンビニエンスストアー

外観の被害は見られない。７時から営業。商品は飲食類はほとんどない。

マンション　ハイネス荒巻

被害が大きく、住民は全戸避難している。玄関には立ち入り時間が制限されていて、住民がそれぞれ避難している場所が貼られていた。

１０：００　高橋正行さん（宮城県高等学校・障害児学校教職員組合執行委員長）と青葉区柏木の高教組の事務所で会う。打ち合わせと白百合の贈呈、尺八を演奏した。

仙台市内地図を入手。

・高教組（４階）のあるフォレスト仙台は、１階の内部の壁がかなり落ちていた。

・青葉区柏木周辺の中小ビルには被害が出ている。

名取市役所　本部機能と地域センター両方を持っているようだ。名取市内地図を入手。

掲示板には、行方不明の家族を捜しているたくさんの掲示があった。

伝言板の内容は切なく言葉にならない。子どもの写真に思わず涙がでた。

＜名取市内閖上（ゆりあげ）地区＞

仙台東部道路の海側の津波被害はすごいが、陸側でも通過道路部分は津波跡がわかる。高橋氏義妹沼田宅跡を見る。周辺の被害を沼田夫妻から説明を受ける。ご子息は津波にあったが脚力を生かし無事だった。白百合を手向け尺八を演奏した。

岸壁までひどい被害、木造は根こそぎ持って行かれたようである。

鉄骨の製氷場は構造の鉄骨と階段は無事で、最上階にあがれる階段がある。津波に対する知識があれば助かったのではないかと思う。

日和山　人工の丘で津波に流された地域が一望できる。この上に逃げた人も津波が来て助からなかった。頂上にあった大きな石碑が倒されていた。１０００名が亡くなり、１０００名が行方不明、そこから２０００名の命を見ていたことになる。白百合を手向け尺八演奏。

日和山の上には、お地蔵さんがあり、地震の起こった１４時４６分にはたくさん人が花を持って上がって来た。亡くなった人と会いに来ているようだった。

３階階段室タイプの住棟は無事。２階までは水が入ったようではあったが、まわりは壊滅状態でも、住棟は残っていた。水の流れにも長手方向が一致していて、影響が少ないこともあり、構造的には津波に耐えたことがわかる。ただ、陸屋根に出ることはできず、近くの人たちが逃げ込む場所にはならなかったようである。

＜宮城県農業高等学校（生徒７２０名）＞

１００年記念館を持つ歴史ある学校。周りは泥と自動車とタイアが散乱している。古タイアを回収している工場が学校の横にあり、農業高校の畑にかなりの量のタイアが山になっていた。

校舎がだめなら、廃校にして３校に転入させる予定らしいが、そのうち１学校は校舎が遠く、父兄からも意見が寄せられていて、教職員組合でも検討しているとのこと。

校舎を改修して使えるのかも知りたい意向があった。診断かどうかを検討したい。

＜名取市の避難所１６ヶ所　避難住民数１７７７人－３／３１現在＞

・名取市文化会館（避難住民４０８名）

建物外では山形の小国町からボランティアが豚汁とワタ飴を提供していた。

文化会館は新しく、トイレもいくつもあり、外周も広々としていた。避難住民は多いが、避難所としては比較的居やすい感じがした。

・名取市増田中学校（避難住民６０名）

白百合を贈呈して、尺八演奏。「こういうのならいつ来ても歓迎、津波が来るのはいやだけど」と言われた。飛び込みであったが、快く演奏をさせてくれた。学校は古いようだが、体育館の広さの割に避難住民が少なく、個別に仕切りもおいてあった。

・名取市館腰小学校（避難住民２２７名）

白百合を贈呈して、尺八演奏。校舎は補強工事を行っていて異常なし。体育館にはかなり人がいて密度が高い。支援物資を床に置くスペースがなく、舞台の上だったせいもあり、その前に自治体の人やボランティアの人が机に一列に並んでいて、少し違和感があった。

避難住民が多いということは、大変なことだと実感した。

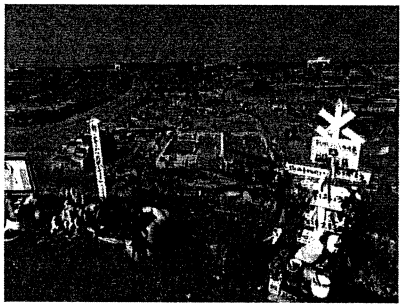
＜今後の打ち合わせと交流＞

１８：００　名取市手倉田諏訪で高橋正行さんと美恵子さん（高校の国語の教師）、今野強さん、和子さん（看護師）、尺八奏者の林真山さん、千代崎、山下で食事をしながら懇談。

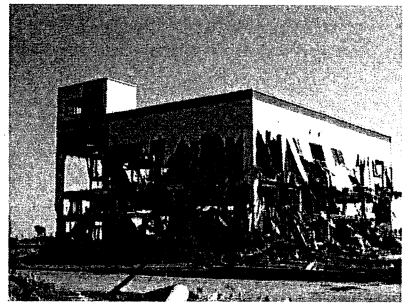
被災地への支援のイメージがつかめた。支援する人を支援する（連帯・団結）

文化的支援「２０００の命とともに　日和山コンサート　鎮魂と連帯」サイレントタイムを「気仙沼（高橋さんのふるさと）にも是非行ってほしい」と言われた。

＜写真は閖上地区＞

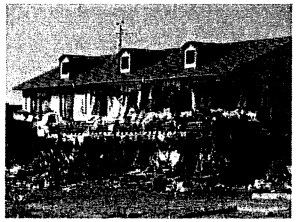


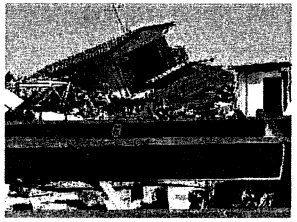
日和山の上から

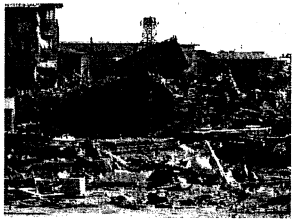


鉄骨の製氷場

階段室タイプの住棟







遺体が見つかった場所に白百合を供え、尺八の演奏

名取市館腰小学校の避難所

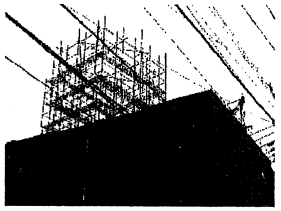
4月7日（木）行動メモ　　（日本建築学会東北支部調査速報を参考にまわった）

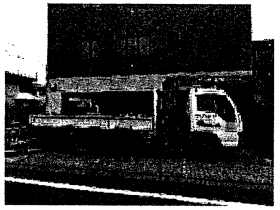
＜名取市若林区＞

若林区区役所で地図を入手。

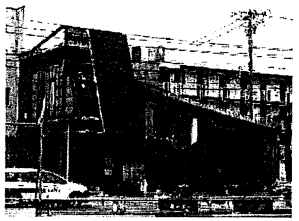
若林区成田町でペントハウスが傾斜したＲＣ造６階建てのマンションを見た。

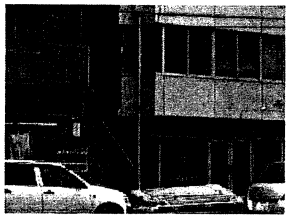
撤去工事中だった。



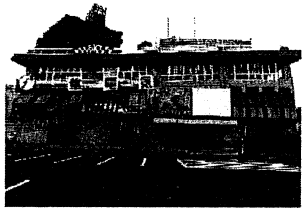


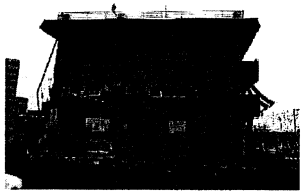
店が崩壊、道路の両側で壁が落ちたり、窓ガラスが割れたりしている。ブルーシートも目立つ。

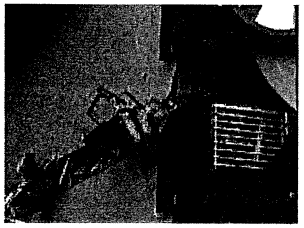




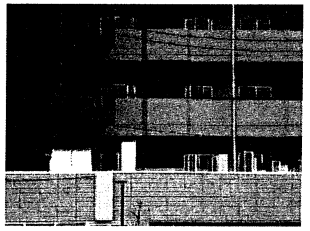
大和町５丁目の３階建てＲＣの２階部分が崩壊

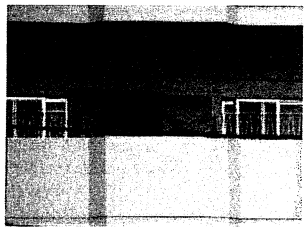






大和町５丁目の１４階建てマンション　ブルーシートで覆われた開口部の被害が全戸に見られる。





第２次新建先遣団行動報告　鎌田／柳澤／林／松木／安達／坂庭

■4月7日（木）行動報告

２：４０　仙台入り、岩淵さんご提供のマンションで仮眠。
・前日２２：３０に象地域設計を出発した。
・東北自動車道で仙台入り（途中国見ＳＡで給油）。災害派遣等従事車両の申請を行ったため高速道路料金は免除。
・岩淵さんのマンションは、水道、電気、ガスは全て復旧済み。

９：１０　県労連訪問。
・物資（おむつ３箱、お尻拭き１箱）届ける。
・鈴木事務局長よりお話を聞く。

９：４０　宮城支部の阿部全国幹事、岩淵事務局長と合流。
・車内で、インフラのダメージのうち、特に下水道については今後深刻な問題になる可能性があるなど、被災の状況を聞く。

１０：３０　仙台市若林区荒浜地区（津波ですべてなぎ倒された田園地帯）を確認。
・田んぼは砂浜状となり、集落の建物はなぎ倒されている。
・自衛隊の作業により、道路はある程度通行可能になっている。
・沿岸の南蒲生下水処理場は大破している。
・仙台市は倒壊家屋などの処分量は２３年分にあたると発表している。

１２：１５　仙台市太白区緑ヶ丘四丁目を確認。
・丘陵住宅地で連続的な地すべり被害が発生。
・９０世帯が避難している。

１３：１５　合同会議に出席。
・宮酪会館１階会議室で開催。【別紙記録作成中】
・出席者は、新建宮城支部、新建先遣団、元福島大学の鈴木先生、宮城県建築センターの三部さん、第一次新建先遣団同行のボランティアの方、河北新報配達員の労働組合元委員長さん。
・鈴木先生からは、「２０１１東日本大震災復興シナリオ（案）」の情報提供があった。ホームページでの合意形成のプラットフォームづくりの準備を進めており、３～４週間で立ち上がるとのこと。
・三部さんからは、「名取市閖上・下増田地区の復興プラン作成について（案）」の情報提供があった。明日（４／８）、名取市に提案を行うとのこと。
・鎌田さんからは、「新建東日本大震災復興支援会議の設立（案）」の情報提供を行った。
・岩淵さんから、宮城県の状況についての情報提供があった。

１７：００　合同会議の会場付近で夕食。
・ガスが復旧しておらず、プロパンガスで調理しているとのこと。

２０：３０　岩淵事務局長のマンションに帰る。
・岩淵事務局長と今後の取り組みについて懇談。【別紙記録作成中】

２３：３２　震度６の余震に遭遇。
・一同飛び起きたが、室内での物的被害はなかった。

■4月8日（金）行動メモ

８：５０　今村全国事務局長へ昨晩の余震の状況を報告。

９：３０　石巻市へ向けて出発。
・余震の影響による交通渋滞に遭遇したため、目的地を変更し、多賀城・仙台港を経て、仙台市長町へ向かった。
・七北田川の沿岸で津波被害を確認。川の中に流された家を確認。
・車中からは、昨晩の余震も含めた被害として、木造建物の屋根瓦や外壁材の剥落、ＲＣ建物のタイル剥落や雑壁クラック、鉄骨造の自動車ショールームのガラス全面破損などを確認した。

１１：３０　仙台市太白区長町の仮設住宅現場を確認。
・施工者は大和リース。完成予定は４月２７日。
・現場で確認した限りでは、建設戸数は２２５戸程度と見えた。

１２：３０　長町駅周辺を確認
・液状化により道路や歩道に大きな不陸が発生している。
・ＲＣ造の公共施設で応急危険度判定の赤紙が貼られた建物あり。
・昼食場所もガスは復旧していないとのことだった。

１４：３０　仙台市役所を訪問。
・応急危険度判定は一旦とりまとめていたが、昨晩の余震で改めて調査を開始したとのこと。
・松木の関心所として、市内で５地区指定される重点密集地区の状況を質問したが、市としては「たまたま国の定めた基準で指定されてしまった」という受け止めで、事業の導入などはしておらず、被害状況も他地区と大きな違いはないとのこと。

１５：３０　名取駅周辺を確認。
・倒壊した木造建物を確認。
・石巻市で被災された宮城支部会員の佐々木さんと連絡が取れ、翌日お見舞いの訪問を行うことを約束した。

１６：００　名取市閖上地区を確認。
・なぎ倒された田園と市街地を確認。壊滅的な被害であった。
・同じ地域の中の一部の新興住宅街区で被害の小さい場所もあった。
・仙台空港への道路は通行止めとなっていた。

１７：００　佐々木さんの避難所へ届ける必要物資を購入。
・下着類はあると助かるとのこと。
・お肉が調達しにくいとのこと。

１９：００　宮城支部の新井さん、阿部全国幹事と一番町で夕食。【別紙記録作成中】
・支援の仕方などについて情報交換を行った。センター（三部さん）の名取市への提案について、必ずしも名取市は積極的な反応ではなかった。大学関係などが続々現地入りの予定あり。など。
・お店は、まだガスが復旧していなかった。
・新井さんが取り組みを支援する東一市場を見学し、いろは横町、文化横町も見学した。

■4月9日（土）行動メモ

９：４５　三陸自動車道の河北ＩＣ付近の上品の郷で宮城支部の佐々木さんと合流。

・岩淵さんのマンションは８：００に出発。

・佐々木さんより、地震時やその後の状況の話をお聞きした。地域の災害対策についても役割を担われているとのこと。

・必要物資を提供した。

１０：００　佐々木さんの避難所へ向けて出発。

１０：３０　河口から８㎞ほどの場所で一旦下車。

・佐々木さんとお付き合いのあった建具屋さんの敷地を確認した。周辺と同様に自宅と工場が基礎以外流されていた。

・支流との分岐部にある５０軒程ある集落も全て流されてしまったとのこと。そこには、茅葺き屋根で有名な熊谷産業もあり、会社をはじめ１０軒分程の茅も流されてしまった。

・地震で１ｍ程の地盤沈下が発生し、川幅が広くなっている。

１１：００　石巻市北上総合支所（石巻市北上町十三浜吉浜）付近を確認。

・津波により木造とＲＣ造の混構造建物が大破。地域の避難所にもなっていたが３０名いる職員のうち１８名の方が亡くなった。

・隣の吉浜小学校でも８名の生徒が亡くなった。

・十三浜という地名は、北上川の沿岸に１３の部落があったことによる。全てが被害を受けたとのこと。

１１：２０　小室、大室地区を確認。

・島が自然の防波堤となり港は残った。地震があった時は船を沖へ出すというルールがあり、船もほとんどが残った（漁師さんは一日港に戻れなかった）。

・遺体捜索が最優先となることから自衛隊には来てもらえず、「結」という地域のつながりによる共同作業でがれき撤去を行い車が通れるようにした。

１１：３０　相川漁港を確認。

・人工の防波堤は全て流されてしまった。

・国道の橋も流されてしまい、交通が遮断されてしまった。佐々木さんは地震時仙台におり、翌日小指の自宅へ向かったが、ここから２時間半かけて徒歩で自宅へ向かったとのこと。

・佐々木さんのお知り合いで、力強く家族を守ったご夫婦の話をお聞きした。船は地震後１０分程で全て沖へ出たので被害を受けなかった。陸地では高台へ移動したが、波の引きが大きく遙か遠くまで底が見えたことから大津波を予測しさらに高いところへ移動した。津波は３０分後に到達した。７年前に建てた港に最も近い建物は新耐震基準の効果からか建物も残った。総檜で２軒分の材料を使いこだわってつくったが、地面が１ｍ下がったこともあり、ここには怖くて住めない（もったいないが壊すしかない）。周りの人もここに住めない気持ちであり、集落ごと高い所に移ることを２～３年かけて実現しようと話している。

１２：００　佐々木さんの自宅兼事務所へ到着（石巻市北上町十三浜小指）。

・小指地区では４名の方が亡くなった。使える建物は７棟だけ残った。

・建物は１階のＲＣ部分は残ったが、２階の木造部分は流された。残ったＲＣ部分は事務所の出張所として利用したい。片づけのボランティアを頼む。

・手書き図面は全て流された。ＰＣも水没したが機器は残りダメもとでデータ復元会社へ復元を依頼している（他に依頼先があるかの情報は欲しい）。

１２：３０　避難所（北上子育て支援センター）に到着。

・避難所には５０世帯が避難している。昭和８年の津波被害後に集団で高台に移転した集落（集団地）の上に立地している。

・建物は２月に新築された。併設の保育園は開園が先送りになっている。

・水は「結」による共同作業で沢水を引いた（水割りに使うと美味しい）。電気は７５kvAの発電機を利用している。ガスは廃材による薪でカバーしている。

・高台付近で住まいを再建したい人もいるが、地域を離れる人もおり、「結」が崩壊しつつあるかもしれない。

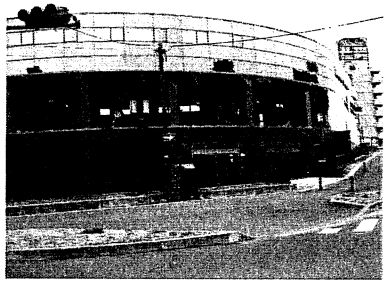
・避難所の災害対策本部を訪問し、副本部長を始め皆さんと懇談。副本部長が「行政もここまでは手が回り切らないだろうが、仮設住宅の用地も復興住宅も自分達でやるぐらいの覚悟はある。そのためにも国のしっかりした支援が欲しい」と言う言葉が心に残った。

・何とお昼（牛丼）をご馳走になった。

・避難所までの道中を通して、平坦な海岸部、リアス式の入り江、丘陵住宅地、街中、様々な被災状況を見ることが出来た。また、被災した方、避難所での暮す人、行政関係の人、学者、ボランティア、多くの人たちと話が出来た。

１３：４０　避難所を出発し、東京へ。河北ＩＣ付近で給油し、２０時に綾瀬駅へ到着。

仙台市緑が丘地区



鉄骨建物の被害

熊谷産業のあった集落

宮城支部・佐々木さんの自宅兼事務所

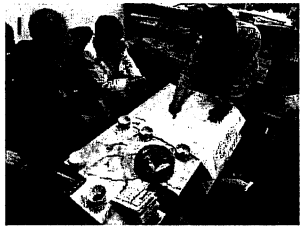
何が出来るのだろうかと悩み、まずは被災地に行こうと思った

第一次先遣隊　山下千佳

高速道路をくぐるとそこは別世界。名取市の閖上地区は、津波で壊滅的な被害でした。横たわった原型を止めない車体に「車に一人イタイ発見13日PM3：15」と書かれた文字があり、私がいる時も少し先で遺体が見つかったのか、自衛隊の車と消防車と数人の住民がいました。自分がどこにいて、どう考えたらいいのか、そこに住んでいない私でも呆然としてしまいました。友人の義理の弟さんの家が津波で流されました。家族4人は無事だったのが何よりも救いです。8歳の女の子が、瓦礫の山をぴょんぴょんと飛んで、私に「宝物」と言ってコップと泥だらけの小さなおもちゃが3つ入ったカゴを見せてくれました。「つなみ君がみんな持っていっちゃった」といいながら。名取市の市役所に設置してある掲示板には、考えられないほどたくさんの行方不明者を捜す写真や伝言が貼られていました。胸がつまって涙が出ました。

名取市では1777人（3／31）が16ヵ所に避難生活をしているとのことでした。名取市館腰小学校の体育館には、227人も避難している方がいて、体育館の床が見えないほどでした。プライベートな時間がなければ、正常なコミュニティは保たれないと言う思いが伝わってきます。それは時が経てば経つほどだと思います。早急に仮設住宅の建設が必要だと思いますが、とにかく災害の規模、被災者の数が膨大で、状況が厳しいことも実感しました。

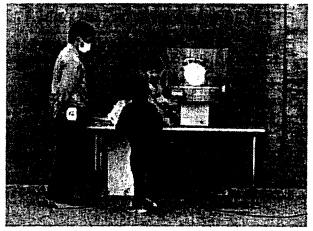
私に出来ることの答えは見つかりません。しかし、先遣隊として被災地に行ったことは、被災地支援をしたいと思って私に託してくださった方々の支援の輪の端を持って被災地につなげてこられたように思っています。支援の輪を継続的に広げるためにも、被災地の状況や被災者の声を発信し、住まいやまちを安全にする、防災や減災に力を尽くすことが、尊い命と被災された方々に応えることができると心に刻みました。



宮城県高等学校教職員組合の部屋で被害状況を聞き、尺八の演奏を披露。他のフロアーの人も集まってくれた。

閖上の日和山で１４時４６分にサイレントタイム「鎮魂と連帯の時」を計画中です。

全国災対連宮城支部（県労連）訪問
白百合を贈呈し激励



さまざまな支援の形ー子どもが綿菓子づくりに夢中。音楽演奏が学校の先生のバンド（名取市文化会館前の広場）

マンションでの被害を中心に

110414

宮城県の仙台で使用禁止の状態になった青葉区のＡＣＰビル＆ＨＡマンション（７７～８０年築・７Ｆ・２０９戸）をはじめ数棟が構造的な問題にも及ぶものになっています。建て替えが問題になるほどの深刻な被害も出ています。

市街地のビルでもマンションでも外壁のタイル剥落を中心とした損傷を受けていることは車で走っているだけでも確認できます。

他にも直接の確認ができた仙台市青葉区のＤＨ山手マンション（９０年築・１１Ｆ・１４３戸）やＬＭ山手マンション（９４年築・１１Ｆ・１８４戸）では廊下側の開口部を中心に亀裂が入っています。構造部分ではないので設計意図通りといえばそうかも知れませんが、管理組合の負担で修繕をしなければなりませんし、見えないところではどうなっているかと不安を持ちます。

若林区成田町で６階建てペントハウスが傾斜してすでに撤去されていたＰＡマンション（９１年築・６Ｆ・３４戸）があります。すでに足場だけの状態になっていました。大和５丁目では廊下の開口部を中心に非構造部分だけのようにも見えますが、数が多いので、違う問題を発生させたと思えるＳＭマンション（８１年築・１４Ｆ・１４０戸）があります。

ちなみに社団法人仙台市防災安全協会の入っているビルは１階エントランスと廊下は内装石風パネルの剥落落下を中心に被害が出ていました。

名取市の閖上地区で津波でほとんどのものが潰れ、流されたのに階段室タイプのＲＣ３階建てがきちんと残っていました。外から見る限りでは３階にいれば命は助かったようです。「津波避難ビル」という位置づけで必要な改良を行なっておけば住民ばかりか、付近の人をも助けられたと思います。

千葉県などでは液状化による配管類の破裂、マンホールの抜け上がり等による被害は本体が無傷でも使用できなかったり、不便な生活を余儀なくされる事態になっています。

東京都でも高層はずいぶんと揺れたのですが、低い階でも家具などが落ちたということは聞いています。

躯体などの被害は出ていなくても高くなればなるほど、生活上の支障はエレベーターをはじめ設備でも被害が出易くなります。

ますます総合的に見る力が必要だと感じました。

一次先遣隊　千代崎一夫（愛とヒューマン＆建築とまちづくり支援先遣隊）

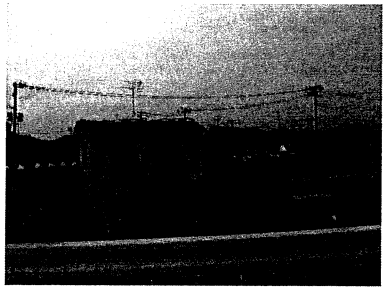
東日本大震災被災地を廻って

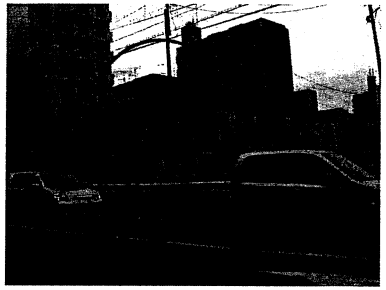
東京支部　柳澤泰博

４月 7～9 日の三日間仙台を中心に被災地を廻ってきました。
視察順路・被災状況については、同行した松木さんの報告を参照してください。
今回の大震災被害は「直接地震によるもの」と「津波によるもの」に、また直接地震によるものも「建物本体への被害」と「地盤によるもの」に分けられそうです。
私はそのような視点で主に木造住宅関係の被災状況について報告いたします。

仙台市内は３月１１日の本震で震度 6 強～6 弱の地震にみまわれました。

1)　木造住宅を中心にその状況報告
仙台市内でも地域によって建物への地震の影響が異なるようですが、今回廻った地域では地震の強さ規模からすると意外と思えるほど、阪神淡路大震災の時のような倒壊した家屋や建物は見当たりませんでした。木造住宅への影響もそのほとんどが棟瓦（のし瓦）の脱落や一部外壁の脱落でした。
地震時の建物内部の直接的な被害状況はわかりませんが、全体的に建物本体への大きなダメージはあまりなかったようです。
屋根瓦脱落の状況は、引っ掛け桟工法の瓦も大きく脱落しているものがありました。
古い家屋のモルタル外壁の脱落はモルタル下地の防水紙ごとザラ板から脱落していました。





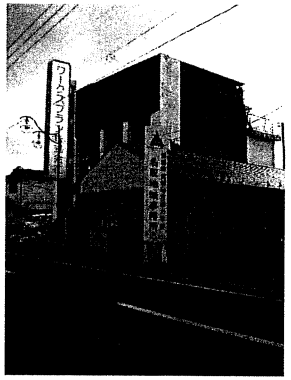
また大規模木造建築の伝統工法で造られている寺などにも大きな影響は見られませんでした。

市内の外観からは無傷の寺

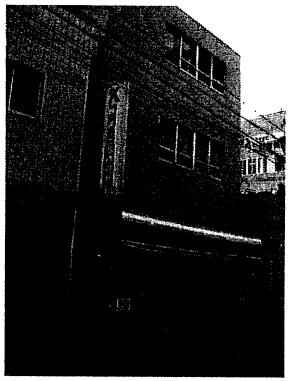
古い家屋の倒壊
木造土塗り壁+和瓦桟葺
道路際にサッシの残骸が見えることからおそらく道路面全体に開口された店舗だった様です。

倒壊した古い家屋

その一方で木造以外の街中での被害では、３階から５階建て程度の鉄骨の中小ビルの外壁の亀裂・脱落が多く見られました。



外壁が全て落ちてしまった町中のビル

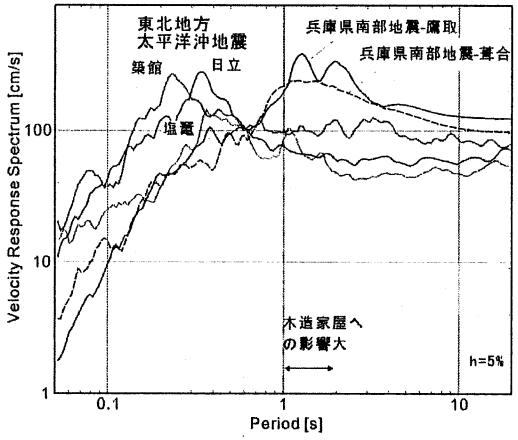


外壁が孕みひび割れている町中のビル

市内全体の地震からの建物への直接の被害状況としては「一部の住宅に損傷は見受けられたが、倒壊、崩壊はほとんど見受けられない」ということになろうかと思います。
これは、見て回った地域にいわゆる老朽化した家屋が比較的少なかったということ、単に地震の大きさだけでなく振幅・加速度・周期などの地震波の性格によっても建物への影響が大きく異なるということの反映でもあるようです。
今回の地震の特性として下記地震研究者の指摘が参考になるかと思います。

参考資料
強い揺れを観測した3-NET 宮城県築館、塩竈、茨城県日立の速度波形と、その応答スペクトルを、兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）における鷹取と葺合地点の波形と比較した。

今回の地震では、木造家屋の被害に直結する周期1～2秒前後の応答が 100cm/s 程度以下と小さく、兵庫県南部地震の鷹取や葺合地点(200～300cm/s)の半分以下であった。（古村による）



2)　地盤への影響

仙台市太白区緑が丘四丁目界隈

背後にずり落ちている住宅

道路も地滑りにより表層が剥離しうねっている

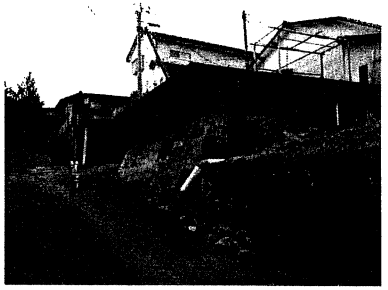
この地域は仙台中心部から南西へ４キロほどの丘を開発した雛壇状の住宅地で、今回の地震により大規模な地滑りが発生し、住宅が使用できず９０戸が避難を余儀なくされています。

地質的にはシルト混じり砂れき層で粘りのない地質である上に傾斜地ということで、地域全体が今回大規模な地滑りを起こしたようです。

本来こうした地盤を宅地として開発すること自体に問題がありそうです。しかし当時の開発会社は今はなく、この開発を許可した行政への責任を問う声もあるということです。

擁壁の構造も今では許可されない「玉石擁壁」や「ブロック積擁壁」、既存擁壁の上にあとから施工された「二段擁壁」や「3mを超える擁壁の老朽化」などが散見され、地盤自体の問題に加えて、宅地開発時の杜撰さとその後の所有者の勝手な宅地改変による影響もあるのではないかと思えます。

ブロック塀・ブロック擁壁の崩壊



玉石擁壁・二段擁壁の被害

3)　津波被害について

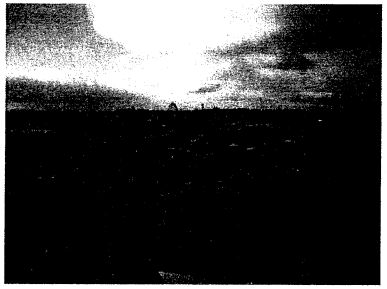
名取市閖上(ゆりあげ)地区をみて

今回の地震の直接の被害に比して海側の津波被害はその規模・状況は圧倒的で表現する言葉もないほどです。

仙台市の東側、海岸から３キロほど内陸にある「仙台東部道路」までの地区が今回の津波の被害を受けた地域です。「仙台東部道路」を走ると海側は瓦礫とゴミ泥が一面累々と続き、その一方反対側は何事もなかったかのように街並みが続き日常生活が営まれています。

海側の津波被害は甚大でなにしろ瓦礫以外は何も残っていませんでした。

こうした平坦地であったからこそ住みやすかったであろうに、広大な住宅地で短時間に今回の様な大津波から逃れるということは絶望的とも思える状況でした。



しかしそうした津波被害を受けた住宅街の一角に、何事もなかったように建っているまだ入居前と思われる 10 数建の新築住宅が取り残されていました。

その差は何だったのでしょうか。これから検証が進むことと思います。

4)　実際の住宅津波被災状況は

石巻市十三浜地区をみて

この地域はリアス式海岸で小さな入り江ごとに良好な漁村がいくつもあり、それで十三浜と言うそうですが、集落のすべてで津波による被害は甚大なもので、集落のほとんどが流されてしまいました。

そうした津波被害の中でかろうじて流されなかった住宅内部を、この地区で漁師をされている所有者のご厚意により、見ることができました。

建物は築７年　在来木造真壁工法　外壁：外壁和風サイディング　屋根：和瓦

木材はご主人自ら何年もかけて買いそろえた総檜造です。

柱梁はすべて無節　大黒柱は尺（30センチ）を超える桧、階段芯柱はケヤキ８寸・・・・

なにしろいい材料をふんだんに使ったお宅で通常の住宅の二倍以上の費用を掛けた住宅でした。しっかりと建てた新しい建物のためか、周りの家は跡形もなく流されているのですが、この建物だけは奇跡的に残っていました。

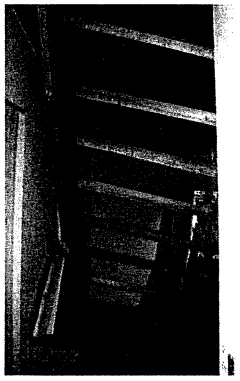
しかし内部はひどい被害で、津波はこのお宅の二階の軒下まで二波三波と押し寄せ、サッシ窓を破り、一階の天井と二階の床を突き破り、二階の天井までも突き上げていました。

ここまでの内部被害で建物本体がよくぞ残ったという感じでした。

たまたまこの住宅の建具を造った建具屋さんもご主人と一緒にいて「建具はすべて無垢材框戸で鏡板は杉の無地一枚板でこうした材料はもうないね。」とのことでした。

建物本体は改修に充分に耐えられる状況でしたが、ご主人はもうこの家には住みたくないということで、何年も掛けて建築木材を集めて造ったこの家をあきらめ、今後何年かかるかわからないがもっと山側に新たに建て替えると言われていました。

桧無節の柱・梁を残して一階天井・二階床が抜けている。



二階天井の野縁が落ち屋根の野地板の裏側が見えている

5）おわりに

今回被災地をめぐって、地震による建物への被害状況からみると、建築確認制度などによる建築構造・工法の整備や広まりにより、建物の地震に対する対応が万全ではないものの、ある程度定着し改善された結果もあったように思います。

しかしその反面、津波被害のその甚大さと圧倒的な自然の猛威を見せつけられて、「その前に人間は何ができるのだろうか？」という疑問に対して、ただただ立ち尽くし人間の無力感さえおぼえました。

これからこの地域の人々がどのように立ち上がり、そうした状況を克服していくのか、被災地だけでなく、日本全体の大きな試練であることは間違いありません。

今まさに我々一人ひとりに何ができるかが突きつけられているのだと思います。

最後に、今回視察させていただいた被災地十三浜の避難所で、家族や知り合いを今回の津波で亡くされている被災者の方々からお聞きした話の中から。

「これまでも津波に対する避難訓練など常にしてきたが、今回はそれを上回った。」

「これからも地区全体で共同して生活しお互いの顔がみえる生活がしたい。」

「津波はこわいが漁師だから海の見える所に住みたい。」

「津波の被害をうけない高台に行政が平らな土地を造ってくれたら、自分たちの手で地区は再建する。」

そこには被災者という悲壮感はなく、「これまでもそうであったようにこれからも海と共存して生きていく」という前を向いた強い意志と決意が感じられました。

番外ドキュメント（今回被災した漁師の方からの話）

地震の時ご夫婦ふたりは午後の時間をのんびりと家でくつろいでいた。

ふたりは大きな揺れが納まるのをまって、今回の揺れが尋常ではない！大きな津波が来る！と直感し、１０分後には父ちゃんは沖合に船を出すために港へ、母ちゃんは家族や隣近所を引き連れて裏山へ避難を始めた。

父ちゃんは船で沖合に向かう途中、津波第一波の大きな白波が打ち寄せてくるのを見つけた。「あの大きな白波に突っ込んだら転覆する！」と感じ、まだ白波が立っていない方に迂回する舵を必死で切り、津波を越える方向を見つけて突き進んでいく。

母ちゃんたちが高台にたどりついた時、津波の第一波が押し寄せ村をさらっていった。「ここまでは来なかった。よかった！」安堵してふと海の方を見るといつも見慣れている岬の先の海底が見える。「ここではだめだ！もっと大きなのが又来る！」母ちゃんは避難しているみんなをもっと高いところへ逃げるように導いた。そして第二波は第一波より大きくうねって村を呑み込んでいった。

沖合に無事避難できた父ちゃんが帰港したのは２日後、もう津波の余波が来ないということが確認できてからで、それまでふたりは互いに連絡がとれなかった。

二人はそれぞれにその時の状況を的確に判断し行動をして難を逃れ、船を守り家族を守った。

上からの改造計画ではなく、被災者一人ひとりに沿った復興を

――東日本大震災の被災地で見聞きしたこと――

新建復興支援会議　鎌田一夫
（住まいの研究所）

私は住宅公団にいた頃、仙台鶴谷ヶ谷団地のタウンハウスの設計を担当して年に何回か仙台に出張した。東北第一の大都市でありながら広瀬川が流れ青葉城の森が迫る。住む人も素朴さを残しており、好印象が残っている。その仙台が被災したとあって何かしたいと思っていたところ、たまたま新建の復興支援会議のまとめ役をやることになり、先遣隊として4月6日から9日まで仙台を中心に被災地にお見舞いに伺い、いろいろな人たちと話をしてきた。

複合災害が高齢化した広範な地域を襲う

東日本大震災では地震、津波に加えて原発事故も発生、地震も揺れによる建物被害だけでなく地すべりや液状化を誘発しており、まれに見る複合災害である。被災地も北は青森県から南は千葉県に及ぶ広域で、その中には高齢化が進んだ中小の都市や集落が数多く含まれる。

こうした、まさに未曾有の災害から復興するにはこれまでの土地所有や利用を抜本的に改めたまちづくりが必要といった論調が目立つ。しかし、復興時の区画整理や再開発で多くの被災者が泣きを見た例は枚挙に暇がない。広域で多岐にわたる復興だからこそ、一人ひとりの状況と希望に沿った復興を社会が支援していく必要がある。

宮城県の被災状況

今回訪れた宮城県での被害は大きく次の様になる。第一は平坦な海岸部での津波被害、第二はリアス式海岸での入り江や河口の津波被害、第三は丘陵住宅地での地すべり被害、第四は地震による建物とインフラの被害である。まず第三、第四の被災について簡単に報告する。

繰り返す丘陵地の地すべり被害

地すべりが起きたのは丘陵を宅地開発した住宅地である。仙台市は広瀬川の西側の丘陵地に多くの住宅地が広がっている。旧法時代のスプロール開発、区画整理、新住宅地事業など様々である。何故平坦な東側に住宅地が広がらなかったのか、新建宮城支部の阿部さんは「農地転用が難しかったのではないか」という。

視察したのは太白区の緑ヶ丘地区。スプロール開発地で、ひな壇造成のため切り土と盛り土が交互にあり、盛り土部分が滑ったように見える。1978年の宮城県沖地震でも被害があった地域である。アップダウンの多いところで高齢者には厳しい。今後は空き家も増えていくであろう。安全対策と共に住環境整備を息長く続けていく必要がある。

津波被害に隠れて地震による建築被害は少ないように思われているが、仙台市営住宅やUR住宅では居住者退去や用途廃止（再利用なし）が行われており、仙台市だけでも4,000近くが全壊している。ただし、長周期の横揺れだったためか、阪神震災のように圧壊した住宅は少ない。柱のせん断破壊が多く、変形に追従できないガラスや外壁材の破損・剥離、集合住宅では雑壁のひび割れが目立った。

汚水処理場の被災

仙台市内でも電気、ガス、水道のインフラが被害を受けた。私たちは地震の3週間後に行ったのだが、電気と水道はほぼ復旧し、ガスが半分程復旧という状況だった。しかし、公表されていないらしいが、下水処理施設（市に3ヶ所）が津波で壊滅的被害を受けている。沈殿させた上水を放出しているという。放射能汚染水の放出とは問題の質が違うが、公共インフラの立地や防災設備が再検討を迫られている。

居久根のある美しい田園の津波被害

平坦な海岸部の津波被害では仙台市宮野木区の荒浜地区と名取市の閑上地区を見た。TVで繰り返し報じられたように、一面津波になぎ倒されて瓦礫の山である。同行した若い新建会員は、余りの悲惨さに暫く車を出ることが出来なかったという。

この辺りの仙台平野は居久根と呼ばれる屋敷林のある農家が点在する散居村であった。地元発信のサイトには次のような紹介がされている。

＜北西の風をさえぎる居久根かな＞

若林区の東部、平坦な地形の中にある若林の農家は風雪を遮る物がない。冬は北西の強い季節風、以前の茅葺屋根などはひとたまりもない。この暴風雪から守ってくれる防風林、屋敷林が居久根である。（イグネ）遠くから眺めると、居久根はまるでたんぼのなかの緑の小さな森。夏でも適度な日陰を提供してくれるし、樹木は平地での燃料をも提供してくれるし落葉は堆肥として有機肥料となる。主たる目的は防風であるが樹木には桃、梅、梨などの果樹、建材としての欅や杉その樹間に野菜の栽培、樹木の根元には秋にきのこなど、居久根屋敷を流れる小川は周りの田んぼとは違った豊富な魚類の生息。自給自足はひとつの居久根文化を形成している。屋敷林に囲まれた中は独特の建物配置が夫々の居久根にあって、この地方の村落共同体を形成している。

宮城県知事はこの地域の復興では、稲作に限らず園芸や酪農を振興したいと言っている。どのような農業を営むかは住民の皆さんがこれから決めていくことだが、居久根文化を継承した営農を期待したい。例えば、海岸から少し奥まったところに、避難建物を兼ねた5階程度の集合住宅を点在させる。その敷地は少し嵩上げし、周辺を屋敷林で覆い、それまでの自給自足型の生活を出来るだけ継承する。住まいの集合だけでなく、営農の集約化も図る。震災で亡くなられたそうだが、仙台には集約農業を推進してきた方が居たと聞く。海水を被った田んぼの復旧は時間が掛かるだろうが、居久根のある集住で力を合わせた復興である。

リアス式海岸の入り江にある集落の被災

新建宮城支部の佐々木さんは石巻市の十三浜地区に自宅と設計事務所を構え設計の仕事をしている。津波でRC造の1階を残してすべて流出した。十三浜は合併前の旧北上町に属する。

旧北上町は北上川の下流・河口から太平洋に面したリアス式海岸までの地域である。人口3,900人のうち301人の方が死亡・行方不明、世帯数は1,151で半数以上の606戸が全壊という甚大な被害を受けた。佐々木さんが住まう十三浜はリアス式海岸の地区で、入り江毎に文字通り十三の集落が連なる。津波に対しては最も厳しい地形にあるのだが死亡・行方不明の方は北上町の他の地区より少ない。津波にどう対処するかを知っておられたといえる。

たまたま、被災した漁師の夫妻に話を聞いた。地震の後、ご亭主は船を守るため沖に出、お上さんは子供をつれて裏山へ。第一波の後の引き波を見て、この3倍の津波が来ると更に高い処へ非難したそうである。この気丈夫なお上さんが元の家には住みたくないと言う。津波の再来だけでなく、地盤沈下で海侵が進んで海が家の傍まで来たのが怖いのだ。高台に集団地を造って住みたいと。

集団地？　昭和8年の三陸津波の後、十三浜の一部の人は高台に集団で移住した。そこは集団地と呼ばれ今でも住み続けられている。高台移住にはいろいろ意見もあろうが、現地の人は何十年もその実態を見た上で今度の選択肢はそれだと考えている。

その集団地の少し上に避難所となった子育てセンター・保育園がある。そこで、地区長さんや元町議会議員さんの話しを聞いた。「市が提示した仮設住宅は余りに遠い。子育てセンターの隣接地を少し切土すれば用地は確保できる。行政もここまで手は廻らないだろうから、自分達で出来ないことを支援してくれれば、十三浜には大工が30人はいるし設備屋もいるので後は何とかする覚悟はある。だが、一番心配なのは歯が抜けるようにこの地区を離れざるを得ない人が増えることだ。皆で再建したい。」

一人ひとりに沿った復興

机上で復興シナリオを考えていると、様々なケースに枝分かれして空中分解してしまう。しかし、被災地でお話しを聞くと、当然のことながら一人ひとりが復興への希望を持っておられる。高所への移住といっても、モデル化が意味を持たない程集落によって条件が異なり、生業の復興もまた然りである。ひとつひとつの解決策を全て救い上げる社会的な支援策というと、理想論で現実味がないように思えるが、そうではない。復興の主力はなんと言っても被災者であり、被災者が心置きなく復興に取り組めるのが実は「効率的」なのである。公的な資金を大量に投入して、意に沿わない復興モデルに被災者をはめ込む愚は繰り返してはならない。

「住宅・居住支援緊急要請」との関係での報告

第二次先遣隊　坂庭国晴（住まい連代表幹事）

仙台の仮設住宅建設の現場を見て

日本住宅会議、住まい連など3団体は、3月25日「大震災の住宅・居住支援についての緊急要請書」を菅首相、大畠国交大臣あてに提出した。その第1項は「仮設住宅の建設と居住施策」で、①応急仮設住宅の建設地とコミュニティの継続、②「ケア付仮設住宅」の建設・供給の重視と居住条件、③自力仮設住宅建設への支援、などである。

仮設住宅の建設現場（仙台市太白区長町）を4月8日午前訪れた。建設地は区画整理事業地の「仙台市あすと長町（38街区）」という所で、16，300平米の敷地である。ここに第1期分として、119戸のプレハブ応急仮設住宅が大和リース（株）によって建設されている。工期は3月28日から4月27日で、1ヵ月で100戸を超えるプレハブ住宅が作られている現場であった。

住戸タイプは1DK（6坪）24戸、2DK（9坪）71戸、3K（12坪）24戸である。1棟5～6戸の平屋住棟が10棟近くすでに立ち上がっていた。写真でみるように、規則正しく（画一的に）羊かんのように並んでいる。敷地内の駐車スペースにとまっている車のナンバーを見ると東北地方だけでなく、関東、関西地区のプレートも見受けられ、全国から建設作業員が集まっている（集められている）ことが分かる。現場員からの話しを聞くことはできなかったが、周辺の建設業者からは「低い賃金、手間で働かされている」という事態があることも聞いた。仮設住宅建設の賃金、労働条件などについての適正化やルールの確立も切実な課題であると現場をみて感じた。

現地で入手した仙台市の「仮設住宅入居募集」では、「高齢者、障害者、子育て世帯、妊産婦といった世帯の事情に配慮」、「同一箇所でまとまった戸数が確保できる住宅は、地域コミュニティ単位での入居に配慮」としている。私たちの緊急要請の内容が反映されたものになってきていることも一定確認できた。「ケア付仮設住宅」の供給や集会施設の建設など、仮設住宅団地での居住施策の実現は、引き続き重要である。この長町の仮設住宅は5月上旬入居開始、第2期建設として114戸が計画されている。

UR賃貸住宅の空き家の提供問題

「緊急要請」では、仙台市のUR賃貸住宅（約4千戸のストック）の削減方針（約2千戸の住宅削減計画）を撤回し、被災者に提供することも盛り込んでいる。これは削減計画の中で空き家（330戸）があるにもかかわらず、提供住宅にしていない問題を取り上げたものである。緊急要請と国会での質疑によって、当初の15戸から大幅に増やし、134戸を提供することをURは発表した。仙台のURの市街地住宅を思い出しながら、4月12日そのニュースを聞いた。

「何ができるか、何をすべきか」

第二次先遣隊　松木康高（東京支部）

仙台市荒浜地区、名取市閖上地区、石巻市十三浜では津波による被害を確認し、地域の存在を根こそぎ奪ってしまう自然の力の巨大さ、恐ろしさを初めて実感しました。その場では、自分に何ができるかを思い浮かべることができず、自分が携わる暮らしに合わせた住まいづくりやマンション修繕、防災性と住環境向上を目指したまちづくりなどの技術で対応できる範囲が限定されたものであることを思い知らされました。

仙台市の中心部では、津波の被害はないものの、建築的には建物の二次部材の被害が散見されました。建物を継続して利用していくには相当な復旧作業が必要な状況です。この点については、マンション修繕などの職能を活かした支援ができるかもしれないと思いました。

合同会議の後の宮城支部・岩渕さんとの懇談で、どのような支援が必要かをお聞きしたところ、今後住まいについての相談が多く寄せられることが予想され、支部で対応しきれない部分（マンパワー的、分野的）が出てくるだろうとのことでした。「新建東日本大震災復興支援会議の設立（案）」にも表れている通り、相談活動は新建の真骨頂です。自分も役割を果たしたいと思います。また、岩手県が大変な状況にあり、先遣団の派遣が必要との話にもなりました。

石巻市北上町では、宮城支部の佐々木さんにお会いし、避難所にもうかがいました。「結」という日常の助け合いの関係が、自衛隊などの支援が行き届かない段階での道路の復旧を実現したとのことで、地域コミュニティの重要性を改めて認識しました。国の支援を受けながら主体的に復興を考えたいという意気込みをお聞きし、震災に負けない強さを感じました。佐々木さんの自宅兼事務所は１階がＲＣ造、２階が木造の混構造でしたが、２階部分は津波に流されてしまいました。残った１階部分は片づけて出張所として利用したいそうです。その様な課題を持つ方は多いはずであり、若い力の発揮しどころだと思います。

被災地へ行くことで、自分の無力さを痛感しましたが、顔の見えるつながりの中で可能な支援から始めていくしかないという気持ちにもなりました。新建では、岩渕さんのご協力で、仙台市に活動の拠点が確保できることになりました。被災地の負担にならない配慮をした上で、被害実態の把握、被災地で奮闘される支部や会員の皆さんの激励や支援（相談活動、片づけのお手伝いなど）を目的に全国の会員が積極的に被災地へ足を運び、それを集団として積み上げていくことが必要だと思います。

被災地を訪れて

第二次先遣隊　安達一八（東京支部）

４月７、８日に第２先遣隊として仙台の被災状況をみてきました。

地震が起こってから３週間という時間が経過していたので、津波によって被害にあわれた地域でも、車両が通れるほどにまで整備されていました。

しかし、その地域はごく一部で名取市付近では、自衛隊がやっと入った感じで、現状としてはあまりにも悲惨な状況でした。その光景をみて、車内から外に出たくない、早くこの場から立ち去りたい。といった気持ちにさせられるほどの現状でした。周りにはこのような状況を見て座り込んでしまっている人たちをみて、自分に出来る事はなにがあるのだろうと感じました。まだ支援が行き届いていない地域があるなかで、今私に出来る事はボランティアとして、復興の手助けを出来ればと考えています。現地をまわって建物の被害状況としても少しは把握できましたが、現状として今すぐ私たちが出来る事は少ないと感じました。専門的な面での支援も大切な事ですが、やはり実行していくには時間が掛かります。

また、心のケアを必要としている方も多く見られました。「現地に行って支援したいが、何をしたらよいのかわからない」という方もたくさんいることと思いますが、顔をみて話しを聞いてあげることで安心する方もたくさんいると思います。小さな事であるかもしれませんが、他の人には出来ない事かもしれません。

被災地では普段の生活に戻るために必死に努力しています。「私たちよりも辛い人はたくさんいる。私たちが嘆いてはいられない」といったような声も聞かれ、被災地の方々の力強さを感じました。この力を支えてあげる事が、被災地の方への支援の形になっていけば良いのかなと私は考えています。

最後に私の地元である山形によって震災の影響を見てきましたが、それほど大きな被害もなく奥羽山脈に守られたように思われます。被災者の受入れの状況を少し聞いてきましたが、交通が不便なのか、あまり山形に被災者の方が移ってはきていないようです。

受付	事務局	

新建全国事務局　メールshinken@tokyo.email.ne.jp　FAX　03-3260-9811

住まいとまちづくりコープ（山下）　メールsumaimachi@sumaimachi.net
FAX 03-5986-1629

申込年月日　2011年　　月　　日

①東日本大震災被災地　調査及び支援希望届け

A）支援予定日　　月　　日　～　　月　　日

B）支援可能な頃（例：○月中の金・土）

支部又は都道府県		代表者または個人	ﾌﾘｶﾞﾅ
連絡先	〒番号		ＴＥＬ
	ﾌﾘｶﾞﾅ		ＦＡＸ
			携帯
			メール
交通機関	□ＪＲ	□　飛行機	□　バス　　□　自家用車　　台
	□その他		
備考			

（区分　①会員　②会員外　③他団体　④個人）

支部名又は都道府県名	氏　　名	区分	支部名又は都道府県名	氏　　名	区分	備考

ボランティア保険加入状況　□加入済み　□加入未　□加入希望

行動・活動予定または、希望すること

注釈）上　A）は日程が決まっている場合　ただし、調整をお願いすることがあります。
B）は日程が特定されていないが、可能な時期がある方は記載してください。
なお、Bの方は、支援会議事務局と調整後に改めて②利用申込書を提出してください。

受付	事務局	

新建全国事務局　メールshinken@tokyo.email.ne.jp　FAX　03-3260-9811

住まいとまちづくりコープ（山下）　メールsumaimachi@sumaimachi.net　FAX 03-5986-1629

②東日本大震災被災地支援　　サポートイン仙台　利用申込書

申込年月日　2011年　　月　　日

支部又は都道府県	0	代表者名	ﾌﾘｶﾞﾅ 0 0

連絡先	〒番号	0	ＴＥＬ	0
	ﾌﾘｶﾞﾅ	0	ＦＡＸ	0
	0		携帯	0
			メール	0
			0	0

交通機関	□ＪＲ	□　飛行機	□　バス	□　自家用車　0　台
	□その他	0	到着予定時間	
備考				

申込内容	宿泊（人数をご記入ください）							合計
月／日	／	／	／	／	／	／	／	宿泊数
曜日								日
会員								
会員外								

個人的または他団体での活動の場合は、人数に関係なく1泊3000円／振込先「みずほ銀行　新宿新都心支店　普通3914020　名義）新建築家技術者集団」

宿泊終了時の確認表（確認後にチェックをしてください）

ゴミ		清掃等	室内		＜連絡事項＞
食器			台所		
換気扇			トイレ		
電気			洗面台		
ガス元栓			風呂		
水道元栓			布団片付け		

＊ガスと水道の元栓は玄関ドアの外（メーターボックスの中）にあります。元栓を閉めてください。

持ち物	シーツを持参する。枕をはタオル等を巻いて使用する。（布団類は4組あります。）
	寝袋を持って行かれることをお進めします。（マンション全体は広いので）
諸注意	①室内及び敷地内は禁煙　②近隣の迷惑にならないように、飲んでさわがない。　③ゴミ等は必ず持ち帰る。
	宿泊利用に際しては、自己完結型で、物を残して帰らないようにしてください。

＊マンションの近くに大型スーパーとコンビニがあります。（食料品は調達可能）

＊場所）仙台市青葉区山手町　22-20

新建宮城支部からのお願いと震災対応状況報告

新建宮城支部会員各位

発信者：宮城支部　事務局　岩渕善弘

依然として3.11の大震災以降、避難所の状況その他の救援の手が十分とはなっておりません。

地元自治体の職員は現地被災者・支援者とともに、連日頑張っている状況です。

しかし、一方「復興のための仕組みづくり」等が発表されている中、支部では阿部代表幹事(仙台)、佐々木幹事(石巻と仙台)、新井幹事(東北工大）を軸に、それぞれのつながりを通して、様々な連携、意見交換、学習会等を拡げております。

先日も弁護士グループからの依頼で復興のまちづくりの仕組みの意見交換、結城富雄氏との漁業復興の仕組みなど、岩渕事務局長は、新建本部の支援の窓口や県内各団体との情報交換などを行っております。

津波や原発のみに報道がされておりますが、特に丘陵地の住宅やマンション被害は深刻な状況です。

これらについて、被災者は危険な中で余震におののきながら生活しております。施設の調査などが急いで必要と考えます。

連休には、新建本部が大挙仙台に入りますので、ご協力できる方は是非メールにご返信いただければ幸いです。

新建会員向けに災害ＨＰを立ち上げております。建築とまちづくりに関する政府や自治体情報など詳細な資料があります。

パスワードが必要ですので、登録希望者は返信下さい。検索でも一部ご覧いただけますので。

なお新建への相談が多くあります。

その中では、ＲＣ構造５Ｆの中規模病院クリニックの建物被災（崩壊危険度Ａ）では、帯鉄筋の建築基準法違反などが見られており、構造診断の早急な相談依頼等がきております。

ぜひ、会員各位からのご支援の手など、よろしくお願いいたします。

とりあえず、現況を報告いたします。

http://agemasu.jp/

震災被災者への
物資提供のためのサイト
アゲマス

物資を提供して頂ける方、登録をお願いします。

物資の提供を受ける方は、会員登録せずにご利用頂けます。
（物資を提供される方は、会員登録が必要です。）

被災者からの物資要望一覧（新着10件）

登録日	タイトル	依頼者	エリア
2011/04/25	ディスクグラインダー本体＋替え刃ください！	tra	岩手県
2011/04/25	寝具類	星の輝き	宮城県
2011/04/25	野球　サッカー	秋元義弘・長沼孝英	東京都
2011/04/25	ギター・ベース	秋元義弘・長沼孝英	岩手県
2011/04/25	テーブルゲーム（囲碁・将棋・トランプ・ウノ・人生ゲームなど）	秋元義弘・長沼孝英	岩手県
2011/04/25	スポーツ用品	秋元義弘・長沼孝英	岩手県
2011/04/25	女性用カップつきキャミソール	秋元義弘・長沼孝英	岩手県
2011/04/25	北海品福袋セット	秋元義弘・長沼孝英	岩手県
2011/04/24	ディスクグラインダー　替え刃ください！	tra	岩手県
2011/04/24	吉本　CD　レコード（ください！！）雇用確保のため	ネコー	宮城県

つづきはコチラ>>

支援者からの提供物資一覧（新着20件）

ファッション	家電・TV・パソコン	食品・飲料	インテリア・日用雑貨	スポーツ・アウトドア
美容・健康	キッズ・ベビー・玩具	ペット・花・DIY	本・音楽・ゲーム	

このサイトについて

アゲマス登録する

物資を依頼する

ログイン（パスワードを忘れた方）

会員登録（無料）

お知らせ

2011.04.23 Yahoo!ニュースに掲載されました。

2011.04.20 過去の支援物資をユーザーページで見れる形にしました。

2011.04.19 携帯専用ページをリリースしました（被災者による商品申込みのみ）。

2011.04.08 @niftyビジネスで紹介されました。

2011.04.07 被災者からの物資要望の登録機能をリリースしました。

アゲマス

toshitoshisharp RT @agemasu_jp: 【アゲマス】被災者への提供物資！ キャットフード・「シェフ缶」3P×24=72缶×2箱 その他缶詰 希望者はコチラから⇒http://agemasu.jp/~/p/pe... #agemasu #shien #busshi

10 minutes ago・reply・retweet・favorite

Join the conversation

災害に関する情報
- 気象庁 津波警報・注意報
- NHK 地震災害情報
- Yahoo!災害情報

避難所に関する情報
- Google 避難所情報
- 給水・炊き出し場所
- 自動車・通行実績情報

通信各社の災害伝言板
- NTTドコモ
- KDDI
- ソフトバンク
- EMOBILE
- WILLCOM
- web171

http://agemasu.jp/sumai/

被災者向け 住まい探しのポータルサイト
仮住まい
マッチング

HOME | 掲載申し込み | 運営団体 | 設立趣意

本サイトは、東日本大地震において被災された方々の仮住まい探しをサポートしようと開設したものです。
被災された方々がそれぞれの実情に応じて仮住まいを選べるように、全国の情報を集約して紹介しています。また、被災地の行政の住宅相談窓口や地域自治組織とも連携して、避難されている方々にこれらの情報が届くよう取り組んでいきます。
随時更新していきますので、ぜひご利用ください。

東日本大震災仮住まいマッチングプロジェクト実行委員会

住まい提供支援を行っている団体・サイトに関する情報は、コチラからお寄せください！

住まいに関する情報

ホームステイ

運営主体・サイト名	エリア	入居対象	利用料	入居期間
被災者ホームステイ	首都圏	被災者全般	―	1～3ヶ月程度
LEGO	新潟県	小さい子供のいる家族	―	―
災害ホームステイ富山	富山県	小中学生	―	最長1ヶ月位
被災者支援プロジェクト「つなぐ光」	沖縄県	妊婦、子供のいる家族	―	1～2週間

サポートが充実している団体・サイト

運営主体・サイト名	エリア	入居対象	利用料	入居期間
児童自立援助ホーム「たちにがわ学園」	北海道	被災者全般	―	半年～1年
NPO法人いわて子育てネット	岩手県	新生児のいる家族	無料	1ヶ月～2ヶ月
ひとりじゃないよプロジェクト	福井県	被災者全般	無料	1年か2年
介護福祉サービスくすもと	島根県	被災者全般	―	1～2年
にいがた雁2のふるさとプロジェクト	新潟県	被災者	―	さまざま

物件情報数が充実しているサイト

サイト名	エリア	入居対象	利用料	入居期間
震災ホームステイ	全国	被災者全般	無料	―
KASETSU TOWN	全国	被災者全般	―	―
roomdonor.jp	全国	被災者全般	―	―
仮り住まいの輪	全国	被災者	無料	1～3ヶ月
住まいりんく	全国	被災者	―	―

行政情報

自治体	内容	入居対象	利用料	入居期間
青森県弘前市	弘前市被災地支援協働プロジェクト	被災者全般	無料	―
宮城県仙台市	被災者支援相談窓口	被災者全般	―	―
宮城県仙台市	住まいの確保・再建のための支援	被災者全般	―	―
宮城県仙台市	応急仮設住宅等コールセンター	被災者全般	―	―
千葉県鴨川市	鴨川市内の一時避難施設紹介	被災者全般	―	―
福井県	被災者受入相談室	被災者全般	―	―
大阪府茨木市	入居申込案内（一般家賃）	被災者全般	無料	原則1ヶ月
兵庫県小野市	ホストファミリー	小・中学生	無料	4～5ヶ月
鳥取県	被災者の避難受入プラン	被災者全般	―	―
山口県萩市	避難受け入れ	被災者全般	無料	―
佐賀県	佐賀きずなプロジェクト	被災者全般	―	―
佐賀県武雄市	第2次武雄市タウンステイ構想	被災者全般	―	ホームステイの場合最短2週間

災害に関する情報
- 気象庁 津波警報・注意報
- NHK 地震災害情報
- Yahoo!災害情報

避難所に関する情報
- Google 避難所情報
- 給水・炊き出し場所
- 自動車・通行実績情報

通信各社の災害伝言板
- NTT docomo
- KDDI
- SoftBank
- EMOBILE
- WILLCOM
- web171

仮住まいマッチング #hinanjo

Ozafan（さんしゃゆ避難所 Facebook 応援ページ）ご支援をお願いします。僅会をしてまで長期の避難所として奉仕の精神で活動されています。http://www.facebook.com/... #shinsai #hinanjo

54 minutes ago・reply・retweet・favorite

Join the conversation

アゲマス #agemasu

toshitoshisharp RT @agemasu_jp: 【アゲマス】被災者への提供物資！ キャットフード・「シェフ缶」3P×24=72缶×2箱 その他缶詰 希望者はコチラから⇒http://agemasu.jp/~/p/pe... #agemasu #shien #busshi

11 minutes ago・reply・retweet・favorite

宮城支部 新井さんより

新建復興支援会議 トップページ http://fukkoushien-nuae.jimdo.com/

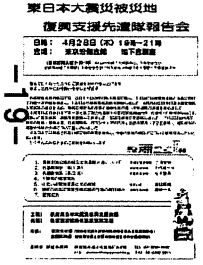
新建東日本大震災復興支援会議を設立しました

2011年4月5日、新建築家技術者集団は、建築とまちづくりの専門家集団である全国組織として、被災地(東北だけでなく関東や信越を含めた)の活動と協働し、その復興を支援することを目的として、全国常任幹事会に付属する新建東日本大震災復興支援会議(略称:新建復興支援会議)を設立しました。【設立趣意書】

「東日本大震災」救援募金を呼びかけます

新建築家技術者集団では、4月12日13日に開催された全国幹事会で救援募金活動を決定し、
全国のみなさんに救援募金の呼びかけを行っています。詳細は【こちら】をご覧下さい。

4月28日(木) 被災地復興支援先遣隊報告会を開催します



東日本大震災被災地復興支援先遣隊報告会
日時：4月28日(木)19時～21時
会場：東京労働会館 地下会議室（豊島区南大塚2-33-10）
主催：新建東日本大震災復興支援会議／新建東京支部
後援：全国災対連／東京災対連

1. 復興支援会議の設立と先遣隊派遣について
：新建全国事務局 三浦史郎
2. 先遣隊報告(第1次)：新建東京支部 千代崎一夫
3. 先遣隊報告(第2次)：新建東京支部 松木康高
4. 千葉県の被害報告
5. 住まい連緊急要請とその展開：住まい連 坂庭国晴
6. 現在の状況と復興支援会議の今後の取り組み
：復興支援会議 鎌田一夫
7. 意見交換

こちらからチラシ【PDFファイル】をダウンロード出来ます。

最新情報

土215月2011

早稲田都市計画フォーラム 「これからの都市 これからの密集市街地整備」～大震災を前提に密集市街地の整備はいかにあるべきか～ を開催

日時:2011年5月21日(土) 14:00～16:30
会場:早稲田大学理工学部(新宿区大久保3-4-1)55号館 1階第2会議室
主催:早稲田都市計画フォーラム
続きを読む

金205月2011

Links

■被災地情報■
首相官邸災害対策ページ ｜ 助け合いジャパン ｜ 原子力安全・保安院
Yahoo!復興支援 ｜ Google災害情報

■支援団体など■
全国災対連：新建も構成団体のひとつです
motherboard 2011「日本の道」：世話人 丸谷博男
兵庫県震災復興研究センター
被災地仮設住宅居住改善ネットワーク
り・らいふ研究会 ｜ 仮設市街地研究会

■国・東京都など■
復興支援会議：復興に向けた指針策定のための復興構想を議論し、6月末に提言する
東京都防災ホームページ：東日本大震災への東京都の対応
災害復興まちづくり支援機構：東京の専門家職能団体の協議会です

■危険度判定・住宅再建など■
日本建築防災協会：応急危険度判定協議会、応急危険度判定活動
全国工務店・建築士震災復興協議会：110412設立文書 pdf、発足ニュース

■プラットフォームなど■
助け合いジャパン：内閣官房震災ボランティア連携室 連携プロジェクトです
東日本大震災支援全国ネットワーク
ALL311:東日本大震災協働情報プラットフォーム
全国社会福祉協議会：被災地支援・防災ボランティア情報
＜地方の事例＞ 新潟県長岡市 東日本大震災ボランティアセンター

■全国の仮住まい情報■
被災者向け公営住宅等情報センター
仮住まいの輪 ｜ 住まいリング
＜地方の事例＞ 新潟県 にいがた第2のふるさとプロジェクト

■学会・協会など■
土木学会：特設サイト、特別委員会情報共有サイト
日本建築学会：災害情報アーカイブ、復旧・復興情報交換サイト
日本都市計画学会：
日本建築家協会：JIA災害支援活動、JIA災害対策情報掲示板
日本建築士会連合会：東日本大震災関連情報
日本建築士事務所協会連合会：東日本大震災対策本部
日本都市計画家協会：協会の基本姿勢110412 pdf

学芸出版社：災害からの復旧・復興関連資料、緊急インタビュー

■原発問題■
日本科学者会議：科学者の眼（放射線被爆問題について、福島原発問題について）
故平井憲夫氏：「原発がどんなものか知ってほしい」
矢ケ崎克馬氏：「福島原発放射能漏れについて（内部被爆）」

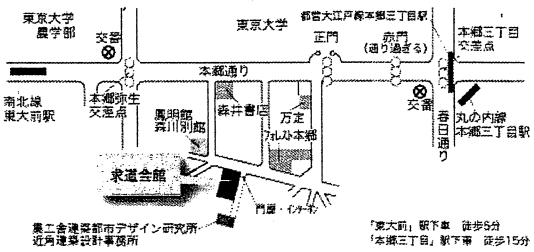
提言など

東日本大震災
チャリティージャズライブ
「甦れ釜石！甦れ仙台！」

2011. 5月7日（土）18時開場
18時30分開演～21時閉会

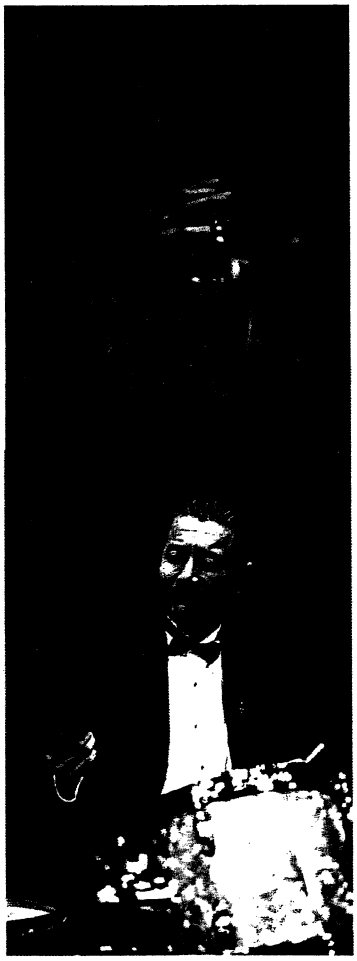
■会費3000円（１ワイン付）
■会場　　求道会館
113-33　東京都文京区本郷6-20-5
☎03-6804-5282

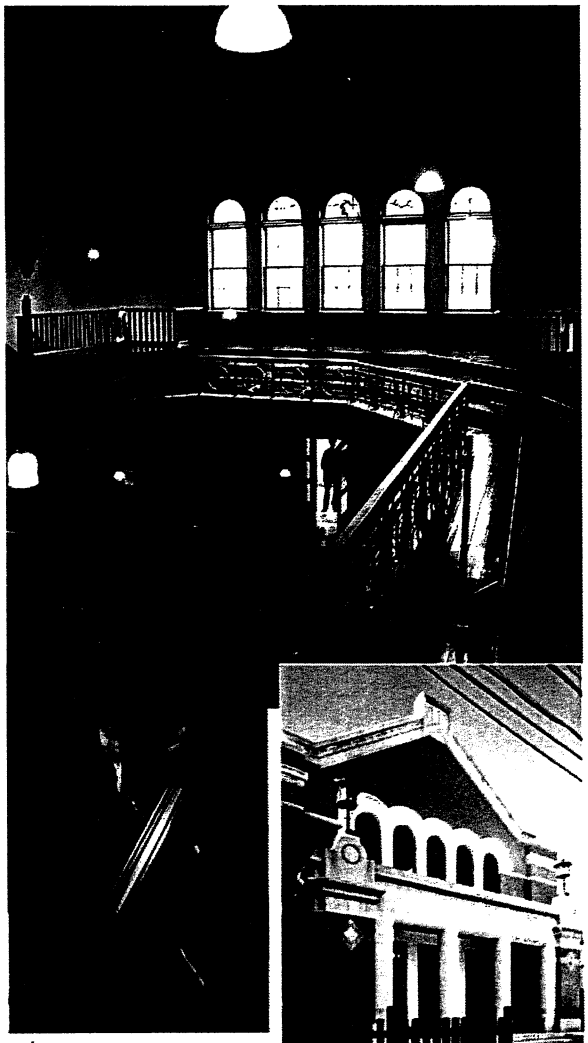
■メッセージ
トランペットの臼澤さんは、釜石出身。
臼澤さんのお兄様夫婦とお姉さま夫婦が釜石で被災されましたが、
幸い、ご無事だったとのことです。
ドラムの守さんは、仙台のご実家が被災されました。
主催者の丸谷と高橋里実さんが、知り合いであったため
このチャリティライブが生まれました。
会場は、丸谷と芸大の講師仲間である近角真一氏が管理されている
求道会館で行ないます。大正４年に建設され、関東大震災に被災し
ているこの建物でのライブです。その空間と建築の素晴らしさも
皆様にお伝えしたいことです。

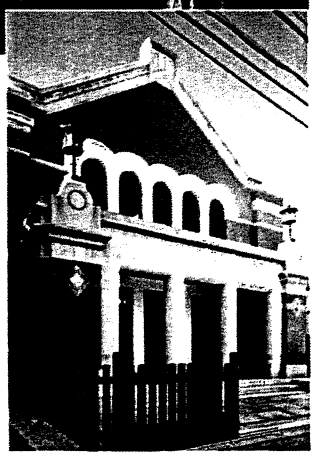


■演奏者／詳しい紹介は、ブログをご覧下さい。→http://japanroad.exblog.jp/i32/

トランペット	臼澤　茂（釜石出身）
ドラム	守　新治（仙台出身）
ピアノ	市川　秀男
ベース	河上　修
サックス	高橋　里実







■主催・申込み受付
motherboard2011
甦れ釜石！甦れ仙台！支援集団
（世話人・丸谷博男）
fax03-5431-6031　または　mail/ h.maruya@a-and-a.net
■ 後援・新建築家技術者集団東京支部→http://shinkenkikaku.dtiblog.com/blog-category-0.html
■ワイン提供／japan import system
■「求道会館」とは
僧侶・宗教改革者の近角常観が、自らの宗教体験を青年学生と寝食を共にしながら語り継ぐ場として設立したのが「求道学舎」です。その敷地内に、この「求道会館」は建てられています（共に武田五一の設計）。　内部は椅子式、ハンマービームトラスの小屋組、周囲に巡らせたギャラリーと、キリスト教会風の空間構成ながら、そこに六角形の厨子を壁から突出させ、また、卍文様の高欄を配して伝統的な和風建築の要素を併存させるなどして、特異な空間をつくっています。この無国籍性は、創設者・近角が推進した仏教運動の革新性と照応しています。